

学校防災教育の効果 - 東日本大震災をふまえた検証の試み - Effects of school education for disaster prevention -An evaluation through the experience of the Tohoku Earthquake-

村山 良之^{1*}

MURAYAMA, Yoshiyuki^{1*}

¹ 山形大学

¹Yamagata University

発表者は、東日本大震災前から、仙台市内と山形市内の学校において、各校のご協力を得て、下記のとおり防災教育に関わってきた。

・2007年8-9月 仙台市立北六番丁小学校 5年生 総合的な学習他 12時間 筆者による特別講義とワークショップ(まちあるき、地図づくり)等

・2010年6月 山形市立第四中学校 1年生 家庭科 2時間 筆者による特別講義

・2011年2月 山形市立第三中学校 1年生 家庭科 2時間 筆者による特別講義

2011年7-9月、北六番丁小学校のほとんどの生徒が進学した仙台市立五城中学校3年生、山形市立第四中学校と第三中学校の2年生を対象に、アンケート調査を行った。

その結果、防災の授業は、いずれも学校においても、「とても」または「少しは役に立った」とする者が2/3を超えて、おおむねポジティブな評価を受けた。具体的な項目においても、大震災前に何らかの対策をとっていた者が一定程度存在する。また五城中3年生のうち北六番丁小学校卒業生とその他とを比較しても、けして大きな差ではないが、北六小卒業生の方が防災への意識が高い(高かった)と評価できる。しかし、事前の対策実施率は必ずしも十分に高いとはいえず、また5年時の授業から3年半を経てその内容を忘れたという生徒も存在する。防災教育を学校カリキュラムにしっかり取り込んで、児童生徒がその発達段階に応じて系統的に学べるようにすることが必要である。

キーワード: 地震災害, 防災教育, 評価, 東日本大震災

Keywords: earthquake disaster, education for disaster prevention, evaluation, the Tohoku Region Pacific Coast Earthquake